

ムーン・コンサート：音楽や踊りで日本の月見

秋の情緒を掻き立てる「ムーン・コンサート」が10月5日、スコーキーにあるエミリー・オークス・ネイチャー・センターで行われた。会場にはベランダがあり、ガラス張りの部屋からも月を臨める絶好の場所だったが、当日はあいにくのお天気。厚い雲に覆われ月を見ることはできなかったが、集まった人々は月をテーマにした音楽や踊りで、日本古来からの月見を存分に楽しんだ。

水木流日本舞踊の水木歌寿女さんがシカゴ箏グループの演奏と共に「十五夜お月さん」

や「うさぎうさぎ」を披露。一家離散後に十五夜を見上げて母を思う少女の姿や、月を見て跳ねるウサギの姿を、美しい踊りで見せてくれた。また、最後には「星月夜」踊って喝采を浴びた。

尺八グループの風錦は「おぼろ月夜」「荒城の月」を演奏。独特の日本の音色で日本の月のイメージを掻き立てた。

特別ゲストのダニエル・クイン氏がクラシックギターで「月の砂漠」「となりのトトロ」「ふるさと」、アイザック・アルベニスが妻にささげたとされるスペイン情緒溢れる口

マンチックな「ゼヴィア」を演奏し、聴衆を髣髴とさせた。また、トレモロがきいた「アルハンブラの思い出」の演奏と共に、片山理恵さんがフラメンコダンスを披露した。

クイン氏はインディアナ大学で学士号、修士号、博士号をギターパフォーマンスで取得し、現在は同大学で教えている。一人で何本ものギターを弾いているような素晴らしい演奏は、クラシックギター歴20年の賜物。

1997年に夫人の故郷である日本を始めて訪問した。折りしも博士課程に進んだ時で、日本の音楽に惹かれ、博士課程の研究トピックに選んだ。

ムーン・コンサートで聞かせてくれた日本の音楽は、日本の音楽家がギター音楽にアレンジしたもので、「その方が日本人の感覚が生きていて、私は好きですね」と語った。

クイン氏は今年の日本祭りにも出演し、クラシックギターの魅力を見せてくれた。昨年秋に片山リエさんに連絡を取ったのが日本コミュニティで演奏する切っ掛けとなった。

ムーン・コンサートは新シカゴ日米会の主催、シカゴ双葉会日本語学校の協力で開催された。

新シカゴ日米会の片山理恵会長は、同会は日本に関係す



ダニエル・クイン氏のギターでフラメンコダンスを披露



「おぼろ月夜」や「荒城の月」を演奏する尺八グループ「風錦」(写真上)

会場に飾られた月見団子

コンサート後には手作りのちらし寿司や混ぜご飯、月見団子など多くの御馳走が出され、月を想像しながら月見を楽しんだ。



十五夜お月さんを踊る水木歌

る音楽、アート、文化をサポートしており、その美しさを分かち合いたいと活動理念を語り、「音楽やアートは世界共通の言葉であり、世界を繋ぐ素晴らしいツール。また違う文化に敬意を払うことを気付かせてくれるもの」だと話した。

挨拶に立ったシカゴ双葉会PTA会長の吉沢亘氏は、双葉会では子ども達の国際的視野を広げるためにアメリカ文化

との交も積極日本文支援す伝いをは月を音楽を語った

月見した日報センは、日別なもも続い